

8. 切るもの

ここでは、チェーンソーと藁切りカッターを同じ、切る機械として報告する。

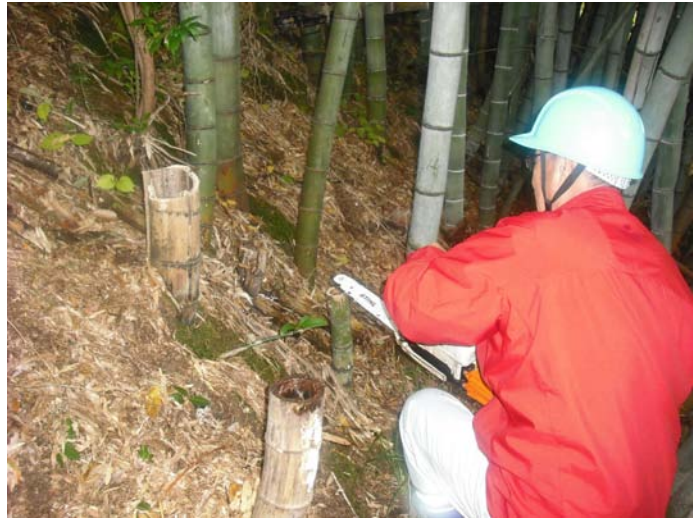
(1) チェーンソー

チェーンソーの使用中の事故は、はしごに上ってチェーンソーを使っていて転落した事例があった。この事例については「はしご」の項で紹介することとし、ここではチェーンソーで直接切創を負った事例を紹介する。

①チェーンソーで竹を切っていて、チェーンが地面に接触、反動で膝を切った

(平成24年10月 午後10時頃、竹林、男性・32歳)

10月5日竹が混みすぎているので間引きの伐採を2人で行う。始めはのこぎりで切っていたが、能率が悪いので1時間程してからチェーンソーで切ることにした。伐採作業は1日で終わらずに日を改めて行うことになった。6日後、3人で8時頃から始める。1人はチェーンソーでの伐採係り、2人は切った竹の枝を払う、竹を積む作業を行っていた。



1時間ほど、本数にして25~30

本程度斜面の上から下に向かって伐

混み合った竹林、事故時、下から上に切った

採したところ、後ろに細い竹があったので、向きを直して下から上に向かって切った。このとき、チェーンソーが勢いあまって竹を切った後に斜面に当たり、その反動でチェーンソーの刃が左膝に当たってしまった。

事故後、同僚にトラックで診療所に送ってもらい受診、消毒治療し、挫創、膝蓋腱部損傷の応急手当てをして、縫合手術のため総合病院に転院した。病院には同僚にトラックで送ってもらい、着いたのは事故後45分程、手術は事故発生後2時間半後、手術は約1時間程度かかった。膝蓋腱部損傷、膝切創、腱部は1本の3分の1程度切れておりその接合と膝を10針縫合した。



縫合の跡

* 事故原因

伐採作業が1日で終わらなかったため、急いで作業を行っていた。竹が体の後ろにあり、切る竹は3本程度であり、また向きを変えるには後ろにある竹林を大きく回って方向転換する必要があるため、本来上から下に切るべきところを、下から上に向かって切った。

チェーンソーは6 kgとかなり重く、馬力があつたことから勢い余つて土に接触し、反動で切ってしまったと考えられる。

竹林は斜度40度程度とかなりきつく、滑り止めのため足を踏ん張る力も相当いる傾斜地での作業であつた。事故後、チェーンソーで竹を切るのをやめた。また、チェーンソーの取扱作業者の講習会に参加して資格を取得した。

(2) 藁切りカッター

②ワラ切りカッターのVベルトに軍手が巻き込まれ、左小指切断

(平成23年 3月11時頃、畜舎、男性・30歳)

畜舎のカッターでワラを切り終わり、切りくずをかたづけていたとき、Vベルトに新しい軍手の小指が巻き込まれ、左小指の先端を切断した。いつもは指の先端が穴があいたような軍手を使っているので、巻き込まれることはなかったが、その日は軍手を新調したため、小指の先に少しひらひらとたるみがあり、巻き込まれ、小指の先端が引っ張られるように切れてしまった。切ったときは血もそれほど出ず、痛みもそれほど感じなかったが、救急車に乗ったとき、指の痛みを一番感じた。

近くの実家まで自分で車を運転して帰った。前もって自宅に携帯で電話をしてあつたので、家族が救急車を呼んでくれてあつた。救急車は自宅に約10分で到着。母親が看護師であつたため、救急車が来るまで切断した指は冷やして保管し、あとは救急隊員にお願いをした。15分ぐらいで病院に到着、すぐに受診した。左環指関節脱臼・左小指切断、4日間入院し、接合手術を施されたが、1週間後には壊死を起こし、最終的には切断せざるを得なかった。引っ張られて切れたことと、先端過ぎたことが原因のようであつた。今も指の先端は寒くなると冷たく感じることもある。

* 事故原因

比較的時間の余裕がある時期でもあり、特に焦っていることはなかった。いつもの忙しい時期なら藁くずの片付け作業はしなかったが、たまたま余裕があつたので、カッターの周りをエンジンをかけたまま、かたづけていて巻き込まれた。

Vベルトのカバーは取ってしまつていて、よく詰まり、いつも同じところなので、いちいちカバーをはずすのは面倒である。同じ場所が詰まるのは、機械的な問題も考えられ、詰まらない改善が必要である。なお、新しい軍手をはめて作業をしたため、指の先までしっかり入っておらず、Vベルトに挟まれるとは思つていなかった。手に密着する手袋での作業が必要。

